

2025 年度海外短期留学（台北医学大学主催の国際薬学研修プログラムへの派遣）

令和 7（2025）年 8 月 24 日から 9 月 8 日までの 2 週間、生命薬科学専攻博士前期課程 1 年生 1 名が、台湾・台北医学大学が主催する国際薬学研修プログラムに参加しました。本プログラムでは、先端創薬研究に関連する遺伝学、薬剤学、毒性学などの講義に加え、中国伝統医薬品の調製を含む実験体験や市中薬局・病院薬剤部・製薬企業の見学など、多角的な学習の機会が提供されました。

参加学生は、英語によるコミュニケーション能力の向上や異なる文化に基づく研究・教育の多様性への理解、自ら進んで討議に参加する姿勢を身に着けることで、実践的な英語能力を養うと共に、国際的に活躍できる創薬研究者を目指す意欲をさらに高めることができました。講義のみならず、細胞培養や紫雲膏の調製といった実験体験、施設見学など、座学にとどまらない実践的な活動は貴重な経験となりました。また、休日には故宮博物院を訪問するなど、文化的にも充実した 2 週間を過ごしました。

今回のプログラムには、本学の学生その他、インド、インドネシア、フィリピン、ベトナムの 4 か国から学生が参加し、様々な交流を通じて多様な文化や異なる宗教観への理解を深める機会にもなりました。

なお、今回の留学生の派遣は、長薬同窓会（長崎大学薬学部創立 125 周年記念事業寄付金）や学内公募事業「国際学生交流支援事業」の支援を受けて実施されました。



集合写真



講義の様子（左）、細胞培養体験（右）



薬局訪問の様子（左）、宿泊施設での参加者の交流（右）



修了証受領後の集合写真（左）、台湾の現地料理を満喫（右）



故宮博物院の見学